

8月17日

申 京浜東北・根岸線で多発している「場内に対する進行の指示運転」で 4 明らかにになった「企業体質」「安全意識の低下」の是正を求める 号 緊急申し入れを行う!

2018年1月14日21時25分頃、品川駅構内にてレール折損が発生しました。その際、京浜東北・根岸線の指令員からは「場内に対する進行の指示運転」の通告が一斉に実施され「品川駅場内進路より3番線停止位置まで進路オーライ」という、運転通告受領券の項目に無い通告が行われました。さらに「非常運転スイッチの取扱い」についても、車内信号に進行現示が表示され、非常運転スイッチを運転位置へ復位するための指示を指令に求めても「そのまま停止位置まで運転を行い停車後に復位を行って下さい」と、これまでの乗務員に対する教育・訓練とは異なる誤った指示が行われています。対応した組合員からは多くの不安や疑問の声が上げられ、現場では「安全衛生委員会」で議論を行い、支社との話し合いの結果、大田運輸区では月例訓練において乗務員に対する再教育が行われています。

しかし、同年7月8日京浜東北・根岸線、桜木町駅南行の「場内進路故障」発生時には、品川駅で発生したレール折損の教訓が一切生かされることなく、指令からは「桜木町駅下り場内進路から下り本線停止位置まで進路オーライ、運転再開してください」という運転通告受領券の項目に無い通告が行われています。

現場からは、1月14日に発生した「場内に対する進行の指示運転」の取扱いについて、支社との間で確認が行われているにも関わらず「何故何度も指令から同じ指示が行われるのか」「東大宮訓練センターで行う現車訓練やシュミレーター訓練における反復した教育」や「現場で行う月例訓練による教育と異なった取扱いが指令の指示で出されると、現場は混乱が生じる」「異常時こそ指令からの明確な指示が必要」など多くの声が上がられています。

東京地本は「現場第一主義」「安全第一主義」を求めると共に「異常時対応能力の向上」のためには、現場、東大宮訓練センター、関係する支社等が「場内に対する進行の指示運転」の取扱いなど「異常時における取扱い」を統一するために労使の議論を深め、お互いの認識を一致させ解決しなければならないと考えます。

従いまして、以下のとおり申し入れを行いますので、会社の真摯な回答と議論を要請します。

記

1. 「場内に対する進行の指示運転」の取扱いを具体的に明らかにすること。
2. 2018年7月8日、京浜東北根岸線桜木町駅にて行われた「場内に対する進行の指示運転」に対する東京支社の認識を明らかにすること。
3. 乗務員の教育・訓練と指令からの指示に乖離があったことから、取扱いを統一し、異常時対応力の向上を図ること。

問題の解決に向けて、職場と連携し団体交渉に臨みます!